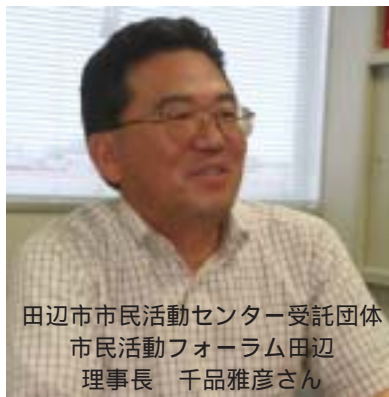


●● 地域とNPO ●●



田辺市市民活動センター受託団体
市民活動フォーラム田辺
理事長 千品雅彦さん

地域力を呼び起こすきっかけに!

現在、センター(田辺市市民活動センター)にご登録いただいているNPOは七十余団体です。

今、注目されているNPO
「自分たちの意志や創意で社会を少しでも良くしたい」そういう個々の自発的な意思を基に、社会活動を繰り広げる市民団体、それが「NPO」です。NPOは、「ノン・プロフィット・オーガニゼーション」という英語の略で、「非営利組織」という意味です。一般企業がその活動を通じて得た利益を関係者に分配するのに対し、NPOは利益を分けず、運営(事業費や人件費等)や次の事業展開に生かしていくために使われます。

NPOの存在を多くの皆さんに知っていただくきっかけとなったのは、平成七年に起きた阪神・淡路大震災による被災者への救援活動等が高く評価されたことです。現在では、介護や子育て環境保全といったまちづくりや福祉などの分野へと広がり、市民生活全般に浸透しています。

また、NPOには特定非営利活動促進法に基づいて法人格を取得したもの(NPO法人)と法人格を持たないものがありますが、どちらも社会に役立つための活動を行ない、その評価に差はありません。

「若い力」も必要

しかし、注目されているとはいえ、会員数や活動場所(情報交換等の場)の確保などへの不安があるのも確かです。特に、まちが高齢化しているように、センターに登録いただいているNPOの会員の平均年齢も高くなっています。NPO活動に流れる「社会、地域を少しでも良くしたい」という精神を継承していくためにも次の世代を担う若い力は必要不可欠です。若い方がどんどん地域活動の場に出てきてくださることで、NPOの活力がさらに発揮されるのではないのでしょうか。

地域の主役の一つ

価値観や生活様式が多様化している中で、人々は自然災害だけではなく福祉の面や教育の面でも迅速で柔軟な対応を必要としています。NPOにはその人々が必要とする多様な柔軟性、市民的公共性などの特性が備わっています。これは、地域に密着した自発的な活動を展開するNPOならではのものだと思います。NPOは、今後の地域に欠かせない主役の一つなのです。

また、今年は「行政とNPOとの協働元年」とも言われ、最近では「協働」と言う言葉をよく耳にします。行政とNPOの本来の意味での協働とは、お互いの活動を理解し合い、意識を共有することだと思えます。その上で、NPOの地域に果たす役割が効率よく機能し、NPOと行政がお互いになくてはならないパートナーとなるためにも、互いの役割を明確にした仕組みづくりが必要だと感じますね。

さらに、NPOによって活動内容が違つように、活動に対する考え方も違いがあります。そういった中で、NPOの「中間支援機関」であるセンターとしては、少人数で頑張っている方への効果的な支援やNPOの力が今以上に

発揮できるための方策を考えていく必要があると思っております。

もとよりNPO活動には地域や人々に刺激を与え、共感を呼び、新たな活動の力を芽生えさせる力があると思います。例えば、道路わきに植えられている花を見て「きれい」と思う感動(刺激)が自分もやってみようという気持ちになり、その気持ちを共有する人が一人、二人と増え、次第に人々の活動の輪となり、やがては地域とのつながりができていく。このように一人ではできないことでも何人が集まれば、大きな力になりますよ。NPO活動に携わっていると、そんな気持ちのつながりの大切さを本当に強く感じます。市民の皆さんには、NPO活動をもっと身近に感じていただき、その活動が地域間交流のきっかけになればいいですね。



市民総合センター2階
「田辺市市民活動センター」